



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No. 6

令和5年 5月15日

文責：校長 齋藤和彦

運動会に向けて！



5月27日(土)運動会に向けて、体育授業や業間の代表リレー練習に本気さが伝わってきます。

学校行事[運動会]を通して、子ども達を育てます。学年や種目の整列順を理解し、縦横周囲に合わせて集団で行動する学び。本気で競技種目に取り組み、最後までがんばる態度。力の限りがんばる友だちを応援し、ゴールの瞬間の喜びを共に味わう感覚。1年生にとっては、体操着の着替えも学びのひとつです。

27日(土)開成山陸上競技場で開催される運動会当日の子ども達の姿は、日々の学校生活の中での小さながんばりや学びを積み重ねた姿であることも感じながら応援していただけたらうれしく思います。



◆◆ 校長室より ◆◆ ～母の日によせて～

くずっと前の家庭教育学級開校式にて>

「ほめる」～親が子にあたえるもの～

◇ 親が子どもをほめるとき..

外国では、「がんばったね！」

～そして、「ハグ」して終しまい

日本では、「がんばったね！」

～そして、「次は、こうすると もっと..」



□ 日本人の生真面目さ？子どもが「ほめられた感」に浸る間もつかの間..次の課題や期待過多..となっていないですか？

◇ 昔の肝っ玉かあさんは、子どもに何か不安や心配ごとを感じても、

『だいじょうぶ！だって、あなたは、お母さんの子なんだから！』(豪快な笑)

→ 何だかよくわからない安心感のシャワーを浴びて、子どもはたくましく育っていく。

→ 肝っ玉かあさんを演じる母親の多くは、子の寝顔をしげしげと見てから床に入る。

・ 今の時代は、何かと理由を付け..あなたは悪くないと庇い..物を買って与え..子どもを満足させる繕いになっている。「昔と今は違う」と言うかもしれない。でも、昔のそれに学ぶところも大きい。

“あたり前のこと”を「あたり前に」

- あいさつをする (自然に)
- 返事をする (短く)
- 靴をそろえる (キチンと)
- 服をたたむ (きれいに)
- 話を聞く (静かに.最後まで)



“あたりまえのこと”と思われませんが、これらを「あたりまえに」できることは、すごいことなのです。【～平凡の非凡化～】

これらは、学校教育だけで育つ姿(習慣)ではありません。家庭・地域の躰(習慣化)つまり、子どもが大人(親)の後ろ姿を見て[魅て]まねるように身に付く姿なのです。

『あたり前のことがあたり前にできる』ということ

- **挨拶**は、万物の礼儀であり尊重する心を育てる
- **返事**をすることは、人を敬う心を育てる
- **靴**をそろえることは、身だしなみを整える態度に
- **服**をたたむことは、常に準備を怠らない態度に
- **話**を最後まで聞くは、集中力を育み判断力を養う



～子どもは大人(親)の姿を映す鏡～

こんな言葉を耳にしたこともあると思います。「薫小の子ども挨拶が心地いいな」と感じるのは、きっと保護者の皆さんの姿からなのですね。私たち学校職員も同じです。

登校時に、あいさつが返ってこない子には、「家で何かあったのかな?」「友達との昨日のトラブルをまだ気にしているのかな?」「何か心配な授業があるのかな?」等、考えをめぐらし、寄り添える仲間でありたいと思っています。大きな声で挨拶はするけど..“本当は、あまり元気じゃないんだよな..”こんな小さなサインまでも読み取れる教師になりたいなと思っています。

私達も、子ども達のお手本(鏡)になれるような“ふるまい”を心がけます。

* 学校だよりには、(印刷不鮮明のため)写真は掲載していません。子どもの学校生活の様子写真は、「薫小ホームページ」に掲載しています。